

テーマ3

企業が国内の森林を活用することの意義

地球温暖化対策をはじめ企業が国内の森林を活用することの経済的・社会的意義について解説するとともに、自治体と企業が連携して森林管理に取り組むプロジェクトや企業の環境ビジネスへの取り組み、開発、消費者の森づくり運動などの事例紹介を通じて具体的な取り組みを呼びかけます。

解 説

近藤修一（エス・ピー・ファーム代表）

〔資 料〕 別冊・企業が取り組む「森林と里山」保全・活用事例集

報 告「プロジェクト『緑のプラン』～和歌山県の実践」

吉村昌也（UIゼンセン同盟ユニチカ労働組合書記長）

〔資 料〕 3 - 1 . 報告資料

報 告「海を守るふーどの森づくり野付植樹協議会の取り組みについて」

吉村邦雄（首都圏コープ事業連合商品部長）

〔資 料〕 3 - 2 . 報告資料

報 告「凸版印刷が考える森林活用の意義と取り組み」

大川 誠（凸版印刷株式会社コラボレーション営業部・環境チーム）

〔資 料〕 3 - 3 . 報告資料

プロジェクト『緑のプラン』～和歌山県の実践

報 告 吉村昌也

UIゼンセン同盟ユニチカ労働組合書記長

【はじめに】

ユニチカユニオンが組織統合後30周年を迎えることから、昨年の大会以降、記念事業検討委員会を設置し、今日の取り巻く状況や組合員の支持が得られることを念頭におき、さまざまな記念事業の検討をすすめてきた。

30周年記念事業の条件としては、記念事業として継続的なもの、組合財政を勘案し大きな支出をとまなわないもの、組織内にとどまらず広く社会に対して貢献できるもの、組合員および社会のニーズに合致したものなどがあげられる。特に社会貢献活動については、20周年記念事業で設立したボランティア基金を活用し、この10年間様々な活動を展開してきた。今次事業においてもこの延長線上での検討をおこない、森林に係わる取り組み「緑のプラン」を提案するに至ったものである。

【活動内容】

「緑のプラン」とは、森林保護の取り組みをすすめるもので、それを通じて自然の大切さを学び環境問題に対する意識の高揚をはかると同時に、組合員のリフレッシュ、またレクリエーションの場を提供するものである。

現在山林を抱える地方では、木材の輸入増加による価格の下落や過疎化により、放置されている森林が増え、大きな問題となっている。この現状はひいては地方から飲料水などの供給を受けている都心部にも大きく影響する。また国家レベルにおいても、京都議定書批准のため森林保護の政策をすすめており、私たちの趣旨にも合致するものである。

「緑のプラン」の具体的な活動は、以下のとおりである。

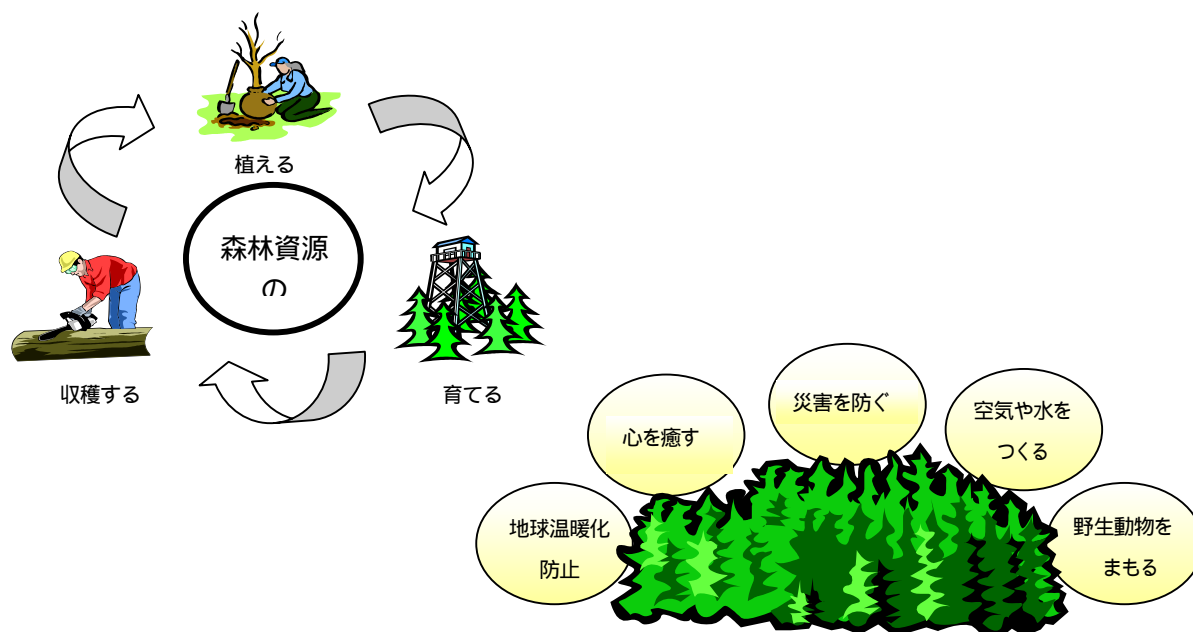
- (1) 和歌山県日高郡中津村の民有地の森林2haを借り入れ、環境保全のための森林作りをすすめる。
- (2) 基本的な管理は地元の森林組合に委託するが、組合員（および管理職）も年数回程度は現地を訪れ、植林や下刈り作業などに取り組む。
- (3) 木々を育てる過程で森林の必要性、地方と都会との関係、環境問題の本質などを体感しながら学習する。
- (4) 地方（森林）の持つ「心の癒し」を活用し、組合員のリフレッシュを図るアイテムの一つとする。また家族を含めてのレクリエーションとしての意味合いも持つ。
- (5) ユニチカユニオンが活動をするにあたり、社会的な運動を活性化する。

【スケジュール】

平成14年10月	和歌山県中津村および土地所有者との賃借契約締結
平成15年	造林・・・2～3月中旬に植付け 下刈り・・・6～8月に実施
平成16年	補植・・・2～3月中旬 (平成15年に植栽した苗木の枯損等が著しい場合に実施) 下刈り・・・6～8月に実施
平成17年～19年	下刈り・・・6～8月に実施

平成20年以降	下刈りは2回程度実施 除伐は下刈り終了後、林況を見て1～2回実施する 間伐は4回程度おこなう
その他	成木になるまでに広葉樹で20年程度、針葉樹で60～80年程度

以上



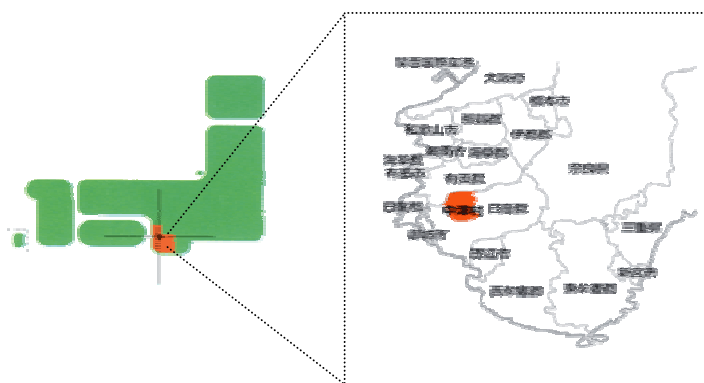
【参 考】

●和歌山県日高郡中津村の概況

1．位置

和歌山県のほぼ中央部に位置し、北は有田郡金屋町、東は日高郡美山村、南は印南町、西は川辺町に隣接している。

- ・東経135°17'12" 北緯33°57'29"、標高：最高811m 最低55m
- ・面積：87.02Km²
- ・東西：約9.0Km
- ・南北：約11.5Km



2．地勢・気象

北は標高650mの白馬山脈が有田郡との郡界をつくり、南は標高400～750mの高峰に囲まれた平均標高400mの山間地です。東西に蛇行して流れる日高川や支流河川が、谷間を縫うようにV渓谷を形成している。流域には耕地と大小の集落が点在している。

地質は中生層に属し、砂岩、頁岩層から出来ている。農地は壤土および砂壤土で、林地は礫質壤が大部分を占めている。

紀伊半島の南部に位置する中津村の気候は温暖で、平均気温は15.3℃、降雨量も年平均1,957mmと多雨のため、樹木の発育に適している。

3. アクセス

電車の利用：JR新大阪より特急で約1時間40分、御坊下車。バスで約40分。

車の利用：大阪方面から近畿自動車道を利用し、海南湯浅道路、湯浅御坊道路・川辺ICを降り約30分。

●森林の持つ様々な機能

1. 災害を防ぐ

地面に広く深く伸びた樹木の根が土壌と基岩層との境をしっかりと固定し、土砂崩れや雪崩などの災害の発生を防いだり、被害を軽減にしている。また、森林内は落枝落葉やかん木、草などによって地表が覆われているため、降雨などによる土壌の浸食や流出が抑えられる。森林と裸地を比較した場合、土砂が流出する量は森林では裸地の1/150という報告がある。

2. 水害を防ぐ

森林は、落葉・落枝などの堆積物や土壌生物が多くすむ表土がスポンジのようになって、雨水を速やかに地中に浸透させる働きがある。その能力は裸地の3倍という報告がある。この機能により雨水はゆっくりと河川に流されることから、洪水や渇水が緩和される。

このようなことから森林は「緑のダム」といわれている。

3. きれいな空気や水をつくる

地球温暖化対策として、二酸化炭素の排出削減が求められている。森林は光合成により、この二酸化炭素を吸収し炭素を貯蔵する。また一方で酸素を作り、供給する機能を持っている。さらに雨水が地中に浸透する過程で水を濾過したり、化学物質を吸い取って水を浄化している。森林が生み出す水は汚れがなく、岩石の間を通ることによりミネラルを多く含み、国民の健康な生活に必要なものであるばかりなく、農業用水、工業用水、発電用水として利用され、さらに漁業にとっても大切なものとなっている。

4. 地球温暖化防止への貢献

地球温暖化の主要な原因である二酸化炭素を森林は吸収・貯蔵している。例えば50年生のスギ1本当たり約190kgの炭素を貯蔵しており、年平均では3.8kgとなる。わが国の二酸化炭素排出量3.3億トン（炭素換算量）を、国民一人当たりになると2.65トンになるが、これはスギ697本の年間吸収量と同じレベルになる。

5. 心を癒す

森林には美しい景観をはじめ、川のせせらぎや小鳥のさえずり等の音、すがすがしい香り、木の実やきのこなどの味覚など、人の五感を通じて快適に感じさせてくれる働きがある。そのため森林はレクリエーション活動や教育の場として活用していくことへの期待が高まっている。

また、多様な野生生物が生息する場として重要な役割を果たしている。

6. 野生動物を守る

森林は鳥類、昆虫類など様々な野生動植物の生息・生育の場となっている。また、森林に降った雨は栄養分に富んだ水となって海にもどり、プランクトンや海草が豊富な魚たちの餌場を形成している。

- 日本の森林の状況と関連の環境汚染

- (1) 木材の輸入増加により、国内価格は大きく下落し、林業が成り立たない。
- (2) 通常は植栽後、定期的な枝打ちや間伐により正常な森が形成されるが、木材価格の下落により放置されている。
- (3) 放置された森林は下まで光が届かなくなり、正常な草が育成せず、土がむき出しの状態となる。
- (4) 山の保水力が失われ渇水要因や、泥が河に流れ込み水質悪化の原因となる。

- 地方と都心部の関係

人口集中と過疎化が進む中、「なぜ地方に税金を投入するのか」という意見がある。一方では、地方が管理する森林や川から流れる水が、都会の人たちの貴重な飲料水となっているなど、相互に恩恵を受けていることもあり、各種の体験を通じて相互理解をはかることが大切である。

以上

海を守るふーどの森づくり野付植樹協議会の取り組みについて

報 告 吉村邦雄

首都圏コープ事業連合商品部長

首都圏コープ事業連合では、資源の枯渇や環境破壊から共生への価値転換を提唱し、食料生産の基礎となる地球、地域、人、そして生き物たちがいつまでも共生しあえるように、また、次世代の子供達がずっと食料をつくり、生きつづけることができるようにという訴えつづけて参りました。その象徴となる商品を「theふーど商品」とし、商品の開発と交流を一体とした取り組みを進めて参りました。

北海道では、開拓以来の酪農政策で原生林の伐採やゴルフ場建設によって森が刈られ、河も海も土砂が流れ、海が汚れてしまいました。このままでは魚のこない浜になるという想いから、野付漁協では、婦人部を中心に平成元年から川の沿岸に植樹を行ってきました。一方、自然と上手につきあいながら、漁業を営むために多くの尽力をされ、秋鮭・ほたてなどの資源管理型漁業に熱心に取り組んできました。そういう自然との共生を実現し、また、植樹活動を地道に長いこと行ってきました野付漁協と首都圏コープ事業連合の進める「theふーど」の活動は、大いに共感できるものがあり、組合員に商品を紹介してまいりました。

2000年6月に、植樹活動の取り組みに代表団という形で、生協から20名参加させていただき、植樹活動の大変さその後の手入れの重要さなどを実感しました。生協組合員に植樹の大変さや意義を広報し、組合員に海を守り豊かにすることを目的として、植樹経費の応募（賛助金）を行いました。その結果、生協組合員の多くの方の賛同を得ました。このまま賛助金を運用するのではなく多くの方々の海を守りたい自然を守りたいという気持ちを植樹協議会という形にし、一緒に植樹をしていただき自然を守る活動に参加してほしいと考えました。野付漁協からは「コープの森」という形で0.6haを借り受け、そこに植樹を行っています。

植樹協議会は、野付漁協、北海道漁業組合連合会、首都圏コープ事業連合の3者で設立し、現在2年が過ぎました。経費は、苗木購入、植樹した樹木管理、植樹活動の援助経費などに使用させていただきました。植樹協議会では、植樹ばかりでなく商品の活動を推進することや浜のおかあさん料理教室などを開催し相互交流を推進しております。現在、02年度の植樹協議会の報告では、野付漁協との取引は4億円に迫る勢いで、植樹本数も1,500本となりました。

この間、植樹活動に参加した生協組合員はのべ100名を超えております。残念ながら、宿泊施設の確保などの問題もあり一回に40名程度しか参加できませんが、植樹ツアーは募集開始より5分で一杯になるほど感心の高いものです。参加組合員からの意見では、木の根が張り植樹するのもなかなか難しかったが、この木が数年後、自分の孫達が見ることができるのかと思うと感動したという感想も寄せられております。自らの行動が環境を守る活動につながるという実感は大きな達成感を持っていただけようです。

年	植樹品種・植樹本数	大まかな活動内容
1999年	-	首都圏コープ事業連合-北海道ぎょれん・野付漁協商品取引開始
2000年	エンジュ・300本	第1回植樹ツアー実施（会員生協理事、職員参加） 組合員より「豊かな海づくり賛助金」募集（8,339名，6,311,000円）
2001年	エンジュ・700本	海を守るふーどの森づくり基本協定調印 海を守るふーどの森づくり野付植樹協議会発足 第2回植樹ツアー実施（会員生協理事、組合員参加）
2002年	ミズナラ・500本	第3回植樹ツアー実施（組合員参加）

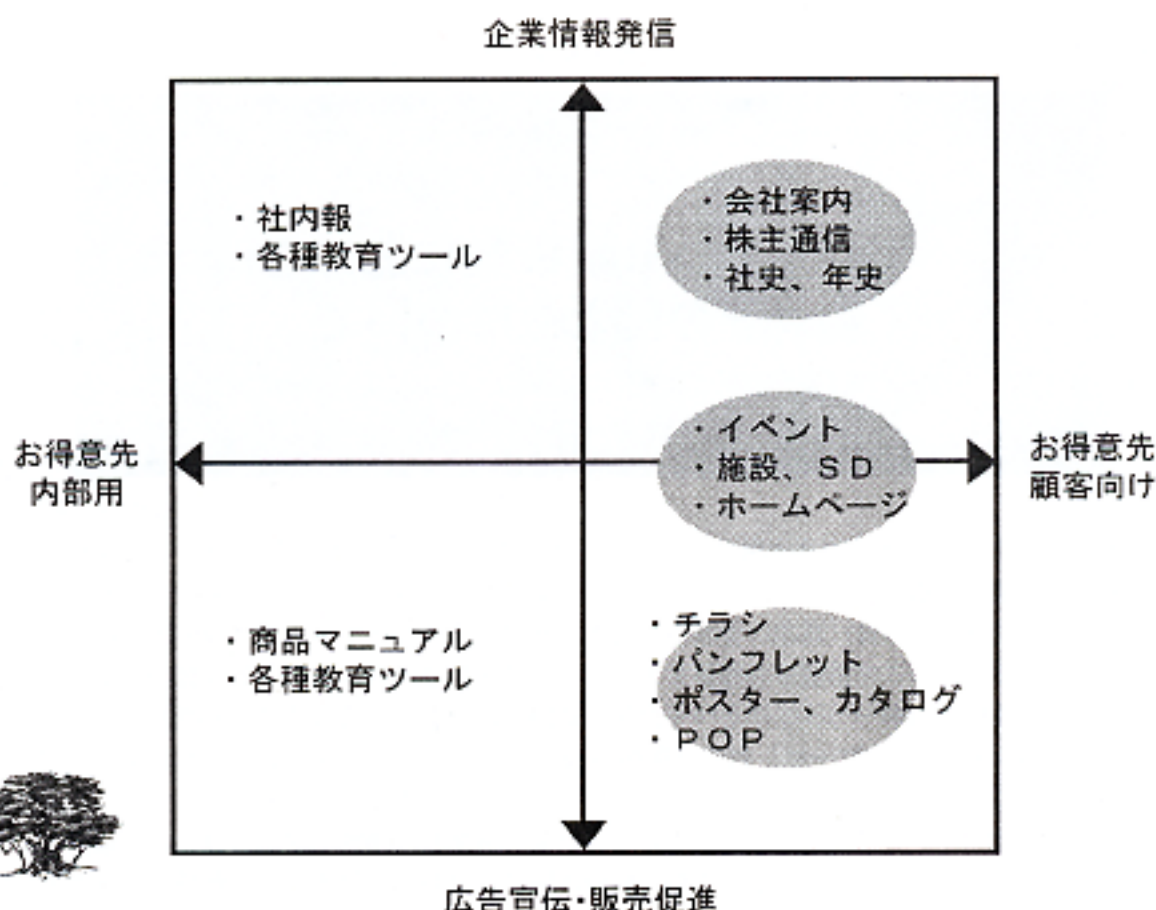
弊社・商業印刷事業における
森林との関わりについて

平成15年3月1日
凸版印刷株式会社
商印事業部・コラボレーション営業部
環境ビジネス開発チーム 大川誠

凸版印刷の商業印刷事業と環境

①

商業印刷事業 → お得意先企業様と顧客のコミュニケーションを支援



今までの商業印刷分野を「環境視点」で見直してお得意先企業様へご提案

1. 環境配慮型素材のご提案
(紙、プラスチック、インキ、木材など)
2. 環境コミュニケーション活動のご提案
(環境報告書、環境イベントなど)
3. 新商品、新素材開発のご提案
(リサイクルシステム、リサイクル商品など)

FSC CoC認証の取得にあたり

②

凸版印刷・商印事業部にてFSC CoC認証を取得した経緯

1. 印刷会社にとって「紙」は重要な資源。
そのもとである「森林・木材」を、我々の事業を通じて支援していくことが非常に重要。
2. 国内の「森づくり」も重要テーマと捉えていた
3. FSCの考え方に賛成できた。
(適切な森林管理と、そこから採れる木材の活用)
4. 「森林」とは切っても切り離せないお得意先企業様がある。

ご採用頂いた企業様

- アサヒビール様
- 三菱商事様 (2002年版・環境報告書にて)
- コマツ様

弊社でのFSC CoC認証に関するその他動向

- 印刷物の引き合い
- 認証の取得方法に関するお問い合わせ
- 木工製品(SD、施設、ギフト品)に関する引き合い

今後の展開

③

今後の課題や展開

1. 「木材」を使うことに関する正しいご理解を広める
2. 納期、品質、コスト、環境のバランスを追求していく
3. 今年に入りFSC CoC認証を取得した「木工品分野」においても積極的に拡販をはかっていく。

【最後に】

FSCに関する話題が中心となってしまいましたが、私ども環境チームと致しましては

“採りすぎない・使いすぎない”

“地域の植生に考慮して”

“使用時の環境に配慮して”

“使用後も無駄にしない・悪影響を及ぼさない”

という考えのもとに木材を始めとする自然素材のご提案を進めていく所存でございます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。